

遊びの情報ウェブサイト「たのしいあそびのじかん」開設のお知らせ

<要約>

COVID-19 の流行を契機に社会の在り方、また医療に関する支援の方法も変化し続けています。“子どもらしく過ごすことが難しくなった社会であっても”、“様々な理由で入院加療していても”、“おうちの中であっても”、自由に選択し、その子らしく楽しい時間が過ごせるヒントを集めたサイトを開設しました。

<公開日>

2021年4月14日(水)公開

URL : <https://kodomoasobicare.ncgm.go.jp/>

QRコード:



<背景>

COVID-19 の流行により、院内外を問わず自由に遊べない、表出できない子どもたちが増加しました。家に閉じこもり、出かけても罪悪感や一抹の不安をかかえ、家族全員のフラストレーションが高まっていると日々の臨床から感じました。当院においては、感染隔離のため部屋から一步も出ることができず辛い思いをする子もいれば、そのような子どもたちへの対応に苦慮するスタッフが多くいました。

社会や環境の変化、先の見通しができない状況が長期的に子どもたちの心身に影響することが推測されました。子どもたちが最も自分らしくいられる時間は遊びをしている時です。NCGM らしい情報発信ができないかと考えた時、日頃から入院している子ども達としている遊びをまとめたサイトを作ってはどうかと思いました。「病院でもできるよ」「入院していてもやっているよ」という事実は、実際にお家で試す際に「やってみようかな」と取り掛かりやすくなると考えました。

<特徴・詳細>

ウェブ開設には医師、病棟保育士、臨床心理士、チャイルド・ライフ・スペシャリストで構成された子どもの心のケアチームが主導しました。サイト内は、小さな子どもにも見やすく、情報を選択しやすい外観にこだわりました。当院の小児科イメージである森や可愛い動物たちのオリジナルのイラストを使用し優しい印象となっています。年齢層や汎用性の高い遊びを具体的に提案、動画で見本をみせることで分かりやすさを意識しました。また、心、主にストレス処理に関しての情報を掲載し、世の中にあふれた情報の整理として役立ち、中高生も参考になるような内容となりました。



<トップ画面>



<あそびの一覧>

<謝辞>

本プロジェクトに取り組むにあたり、院内・院外の方々から多大なご協力をいただきました。また本プロジェクトの活動資金にはコロナ寄付金より提供していただきました。皆様からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 小児病棟
小児科診療科長 第一小児科医長 七野 浩之
小児科外来主任医師 山中純子
子どもの心のケアチーム 一同
お問い合わせ先
pedcare-covid@hosp.ncgm.go.jp